

令和3年10月2日（土）

**全国知事会 新型コロナウイルス緊急対策本部（第29回）における丸山知事
発言（発言要旨）**

1. ワクチンの配分について

ワクチンの配分について、9月8日に、河野大臣は12歳以上の対象人口の9割の方に打てるだけの量をお届けすると明言され、9月28日の厚生労働省の通知でも、ファイザー製とモデルナ製を合わせて、10月10日までに対象人口のおよそ9割が2回接種できるだけのワクチンを配分すると明記をされたが、（実際に）10月10日までに配分される予定量は、本県では85%に留まっている。

我々からすると、（12歳以上の対象人口の9割の方が2回接種できる量が配分されるという）約束が果たされていないという状況で受け止めている。まず、早急に9割分の配分を実施すること、そして、政府の方針としては、接種を希望する方すべてに接種をしていくということであるので、（ワクチン接種の）希望が9割を超える市町村には、それをフォローできる水準まで配分をしていただくことが、ワクチン・検査パッケージの（運用に向けての）大前提であると思っている。

県内の実情を言うと、既に受け付けている予約分について、当然ファイザー製での接種を前提としていたが、これをモデルナ製に切り替えなければいけないのではないかという状況に置かれている市町村が実際にあるため、早急に（ファイザー製の）ワクチンを配分していただきたい。

また、ワクチンの種類について、9月28日の厚生労働省の通知において、（10月11日以降の配分について、）市町村が行っている一般接種でもモデルナワクチンの活用を検討するように、とされ、さらに9月21日に改正された新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施に関する手引きにおいても、1回目と2回目が同一のワクチンで接種できない場合には、1回目と異なるワクチンを2回目に接種する「交互接種」が可能とされた。

これらのことから、私は、ファイザー製が足りないので、市町村が行う一般接種で、モデルナ製を2回目または両方使うように、（国が）方針を変更しようとしているのではないかと疑念を持っている。

私の理解不足があるのかもしれないが、（ワクチン接種を）仕事として携わっている、県知事の私が誤解するような対応では、県民、国民の皆さんが理解、納得されるのは難しいと考える。（ワクチン接種は）国民、県民の重大関心事であるので、この点を明確にさせていただきたいと思っている。

本県の要望としては、市町村が求めているファイザー製ワクチンを十分に供給していただくことであるため、今回の提言案に明記していただいたことについて感謝申し上げ、また、この点について強く訴えていただくようお願いしたい。

2. Go to イート事業について

Go to イート事業について、プレミアム率の引き上げを明記していただきたい。

今の制度では、スタート時のプレミアム率 25%が、現在、20%に引き下げられており、これは、今年の1月に（この事業を含む）経済対策の予算が決定された際には、感染状況なり経営状況が落ち着いていくという前提で、プレミアム率が引き下げられたのだと思うが、島根県の飲食店の状況は、（休業や時短要請の対象地域にならなかったため）休業の協力金等は一切配分を受けないまま、（厳しい経営状況が）年初からずっと3波、4波、5波と続いているため、もう疲弊しきっている。

そのため、消費喚起という、本来的に経済対策として最も正しい政策を、大胆に実行するという観点から、この（行動制限の）緩和の時期にプレミアム率を引き上げることは、予備費を充当してでも、当然やるべきことと考える。

これまで、国民の行動を止めることにお金を使ってきたが、（今後は）是非とも（観光や飲食店の利用等の）行動してもらうことについて、促進措置を大胆に講じていただきたいと思っている。

3. 臨時の医療施設の設置について

大都市に、国主導で臨時の医療施設をつくるべきだというご意見が、大阪府の吉村知事からあった。

そのこと自体には反対はしないが、旧国立病院や、日赤、済生会等の全国組織を通じて、各地の医療機関から医療従事者を吸い上げて、大都市部で、この臨時の医療施設を運営されるということになると、（医療従事者を送り出す側となる）我々としては困るため、違うやり方で運営されなければ、認められないと考える。